

## ◎養父市の決算を家計簿に置き換えると…

### ▼養父市一般会計

<b>総収入</b>	214 億 6,000 万円
市税	26 億 1,000 万円
使用料及び手数料など	9 億 7,000 万円
地方交付税・地方譲与税・国県補助金など	122 億 7,000 万円
繰入金	7 億 5,000 万円
市債	37 億 5,000 万円
繰越金	5 億 2,000 万円
諸収入	5 億 9,000 万円
<b>総支出</b>	206 億 8,000 万円
人件費	31 億 3,000 万円
物件費	19 億 6,000 万円
投資的経費	48 億円
公債費	40 億 1,000 万円
繰出金	27 億 5,000 万円
補助費等	20 億 4,000 万円
扶助費	14 億 9,000 万円
積立金	3 億 2,000 万円
維持補修費	1 億 4,000 万円
投資及び出資金・貸付金	4,000 万円
<b>形式収支</b>	7 億 8,000 万円
繰越財源	2,000 万円
実質収支	7 億 6,000 万円

### ▼家計簿に置き換えた場合

<b>総収入 (月額)</b>	306,571 円
給料	37,286 円
家賃収入	13,857 円
実家からの仕送り	175,286 円
預貯金からの引き出し	10,714 円
金融機関からの借金	53,571 円
前月繰越金	7,429 円
雑収入	8,428 円
<b>総支出 (月額)</b>	295,428 円
食費	44,714 円
光熱水費、日用品購入など	28,000 円
家の増改築	68,571 円
家や自動車のローン	57,286 円
子どもへの仕送り	39,286 円
家族への小遣い	29,143 円
医療費など	21,286 円
預貯金	4,571 円
家の補修費など	2,000 円
その他	571 円
<b>収支 (月額)</b>	11,143 円
翌月支払義務経費	286 円
実質的な収支	10,857 円

※収入・支出ともに一般会計決算額を7万分の1にしています。

## 指標からみる財政状況

### ●財政力指数

標準的な行政活動を行うために必要な金額をどれくらい自力で調達できるかを表している指数で、1に近いほど財源に余裕があるとされています。平成18年度現在で、養父市は県下一低い数値の団体となっています。

### ●起債制限比率

一般会計の借金返済（公債費）の負担が財政に及ぼす影響度を分析する指標で14%を超えると要注意で20%以上になると借金をするのに制限がかかります。

借金返済の負担が年々大きくなっているため数値は上昇を続けており、平成18年度で13.3%と要注意の段階になりかかっています。できるだけ借金を返済して数値を抑える必要があります。

### ●実質公債費比率

市全体の借金返済の負担を示す指標で、平成17年度決算から新たに設けられました。18%を超えると借金をするのに県の許可が必要となり、25%を超えると制限がされます。平成18年度数値は、若干下がって21.4%となっていますが、依然18%を超える数値であるため、数値を抑える努力をする必要があります。

### ●経常収支比率

市税のように経常的に収入される用途を特定されないお金に対する、人件費や物件費といった経常的に支出される経費の割合を示す指標です。財政構造の弾力性を表します。

この数値が80%を超えると、財政の硬直化が進んでいると言われています。養父市では、公債費の増加に伴って年々数値が上昇し、平成18年度で92.9%となり財政に余裕がない状態となっています。

### 【財政指標の状況】

	16年度	17年度	18年度
財政力指数	0.257	0.267	0.279
起債制限比率	11.6%	11.8%	13.3%
実質公債費比率	—	22.0%	21.4%
経常収支比率	77.6%	89.6%	92.9%